

〈知的障害教育〉

造形的な見方・考え方を育む美術の授業の工夫

——自分の思いや考えを伝え合う活動を通して——

沖縄県立美咲特別支援学校はなさき分校教諭 中曽根 祐 子

I テーマ設定の理由

予測困難な変化の激しい世界状況や急速なグローバル化、AI化が進む社会の中で、子供たち一人一人が変化に対し主体的に向き合うことや、多様な人々と協働し様々な変化を乗り越え社会の創り手となるよう、学校教育には「生きる力」の育成が求められている。この「生きる力」の育成を目指し、平成31年2月特別支援学校高等部学習指導要領が告示された。今回の改定の方針性として「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が示され、さらに、美術においては、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る際に、「造形的な見方・考え方を働かせ、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。」が求められている。

美咲特別支援学校はなさき分校は知的障害を主とする特別支援学校である。開校当初から「生活する力」「人（社会）と関わろうとする力」の育成を教育の柱とし教育課程が編成されている。小中高協働の時間が設定されており、本校独自の「身に付けたい力」の指標に沿った、系統性、連続性のある教育実践を通し、キャリア教育の充実に努めている。幅広い人との関わりの中で思考を広げ、問題解決したり、創造したりしながら学び続ける本校の教育活動は、「主体的・対話的で深い学び」の実現にもつながると考える。一方、昨年度の校内研修において、今後の本校の課題として各教科におけるキャリア教育の視点（身に付けたい力の指標）に基づいた学習内容の検討や授業改善が挙げられた。担当する美術の授業においても、本校の「身に付けたい力」の指標と照らし合わせながら、「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を通して、美術科で育成を目指す資質・能力を育んでいきたい。

本校高等部の美術は週2時間の連続授業として設定されており、「主体的に表現する力」「創意工夫する力」「作品の良さや美しさを味わう態度」の育成を重点目標とし授業を行っている。

これまでの美術の授業実践を振り返ると、生徒の実態に合わせて題材設定して授業を行っているが、制作に主な時間を使うことが多く、その日の成果を確認したり、お互いの作品を共有したりする時間が充分ではなかった。生徒たちの多くは美術が好きで、どの題材にも前向きに黙々と取り組んでいる。一方で周りの生徒の作品や制作途中の姿に興味、関心を持つことが少なく、また、本物そっくりに描くことを「上手」と捉えている生徒が多い。さらに、自他の作品についての感想を聞くと「楽しかった」「うまい」「すごい」という表現で完結してしまう傾向があり、表現の幅に広がりが見られず、次の作品づくりにつながらないという課題が見られる。

そのため、生徒がお互いに自分の考えや思いを伝え合ったり、イメージを共有したりする活動を通して、様々な見方・考え方があることを理解し、自分の作品づくりに生かすことができる指導の工夫が必要である。また、対象を豊かに捉え表現や鑑賞を充実させていくために、造形的な視点についての理解を促す授業の工夫も必要である。

そこで、本研究では表現と鑑賞を相互に関連付けながら、自分の思いや考えを伝え合う活動に重点をおいた授業を実践する。生徒の思いや考えを引き出す発問や対話場面の工夫をしながら、生徒同士の学び合いを大切にして授業改善を行っていく。自分の思いや考え、気持ちを伝え合う活動を通して、新たな視点に気づき、また、視点が広がることで、事象や対象を豊かに捉える力が育まれ、造形的な見方・考え方が広がっていくと考える。このような活動を積み重ねることで、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育んでいけるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

表現や鑑賞の活動を通し、造形的な視点の理解を促す指導と自分の思いや考え、イメージを伝え合う活動を積み重ねることで、対象を豊かに捉える態度が育まれ、造形的な見方・考え方が広がるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 造形的な見方・考え方

各教科等の「見方・考え方」は「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）」では、学びの深まりの鍵となるものは、各教科の特質に応じた「見方・考え方」であり、今後の授業改善において極めて重要になるとされている。また、各教科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようになることが求められている。

(1) 美術の「見方・考え方」→「造形的な見方・考え方」

特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（下）（高等部）によると、「造形的な見方・考え方」とは「表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分として意味や価値をつくりだすこと」とされている。

(2) 造形的な視点

特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（下）（高等部）によると、『造形的な視点』とは、造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色彩、材料や光などの造形的な要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点のことである。（略）造形的な視点を持つことで、漠然と見ているだけでは気付かなかった身の回りの形や色彩などの特徴に気付いたり、よさや美しさを感じ取ったりすることができるようになる。造形的な視点とは、美術ならではの視点であり、教科で育てる資質・能力を支える本質的な役割を果たすものである。」とされている。

以上のことを踏まえ、造形的な見方・考え方を育む授業の工夫として、身の回りの「美」を題材として設定し、表現や鑑賞の活動を行い、造形的な視点の理解を促す指導と自分の思いや考え、イメージを伝え合う活動を積み重ねていく。自分の思いや考え、イメージを共有することで、新たな気付きや価値を見出し、次の活動へつなげていくことができる指導の工夫を行っていく（図1）。

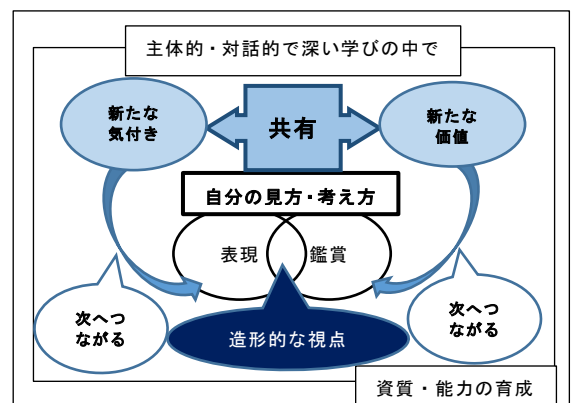


図1 造形的な見方・考え方が広がるイメージ

2 主体的・対話的で深い学び

特別支援学校高等部学習指導要領解説総則等編（高等部）では、「各教科・科目等又は各教科等の指導に当たって、（1）知識及び技能が習得されるようにすること、（2）思考力、判断力、表現力等を育成すること、（3）学びに向かう力、人間性等を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」と示されている。その具体的な内容については中央教育審議会答申（平成28年12月）において以下の3つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。

①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点、②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点、③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点の3つである。

(1) 美術における生徒の「主体的・対話的で深い学び」の姿（表1）

本研究では中央教育審議会の示した3つの視点を踏まえ、以下のようにまとめた。

表1 本研究における「主体的・対話的で深い学び」のある授業での生徒の姿

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
・表現することや鑑賞することに興味・関心を持って取り組んでいる。 ・自分（生活、将来）と結びつけて考えている。 ・見通しを持ち、完成に向けて粘り強く取り組んでいる。 ・うまくいかないときに解決策を見いだそうとしている。 ・完成作品や制作過程を振り返って次へつなげようとする。	・友達や教職員等幅広い人との対話を通じて、 →共通点や相違点があることに気付く。 →多様な考え方があることに気付く、新たな視点を見いだす。 ・自分の思いや考えを言語表現や造形表現している。 ・様々な方法（対話、他の生徒や先哲の作品、インターネット等）で情報収集し、自分に合ったものを選択している。 ・意見を出し合い共同制作に取り組んでいる。	・身に付けた知識や技能を活用し、 →自分のイメージを表現する。 →新たな表現を見いだす。 →問題解決している。 →実生活へ一般化させることができる。 ・様々な情報をもとに自分なりのイメージを表現している。 ・感性や想像力を働かせ、新たなものを創造しようとする。

(2) 本校の「身に付けたい力」と美術の授業との関わり

本校は学校の教育目標を実現するために、「生活する力」「人（社会）と関わろうとする力」を教育の柱として教育課程を編成し、学校独自のキャリア教育の視点「身に付けたい力」の指標を作成している。本研究では、高等部美術の授業において本校の指標を基に「身に付けたい力」を表2のように定義し授業実践を行う。

表2 美術で「身に付けたい力」（本研究での対象生徒の発達段階において）

生活する力	
生-1 身辺自立	①TP0に合わせた行動ができる（作品の扱い、汚れる題材の時はエプロンをつける、片付け、道具を安全に扱う等）。
生-2 作業への意欲・関心	①表現や鑑賞の活動に興味・関心を持ち、積極的に取り組むことができる。
生-3 自己選択、判断する能力	①表現したいことに合わせて方法や材料、用具等を自分で選ぶ。 ②表現過程の中での問題解決に向けた選択や判断ができる。
生-4 目標設定・振り返り	①見通しを持って制作することができる。 ②制作過程を振り返り、次へつなげることができる。 ③自分の作品について思いや考えを伝えることができる。
人（社会）と関わろうとする力	
人-1 コミュニケーション	①友達や教師等と状況に合わせ、適切なやり取りができる。
人-2 役割意識の形成	①最後まで制作に取り組むことができる。 ②他者への働きかけができる（質問、相談、教え合い等）。
人-3 自己理解・他者理解	①達成感や成就感を持てるような体験の積み重ねを通して肯定的に自分を捉えることができる。 ②他の人の思いや考えを聞き、様々な表現方法や違う考えがあることに気付くことができる。
人-4 集団参加する態度	①共同制作や話し合いに積極的に参加することができる。 ②学んだことを生かして、生活の中で視野を広げた表現ができる。

(3) 美術における主体的・対話的で深い学びと本校指標「身に付けたい力」の関わり

「主体的・対話的で深い学び」の視点と本校の「身に付けたい力」の指標を美術の授業における視点で照らし合わせると、「生-1①」「生-2①」「生-4①②」「人-2①」は主体的な学び、「生-4③」「人-1①」「人-2②」「人-3②」「人-4①」は対話的な学び、「生-3①②」「人-4②」は深い学びにつながることが見えてきた。このことより美術の授業において「主体的・対話的で深い学び」を実現させることで本校の「身に付けたい力」も高めていけると考える。

Ⅲ 研究の実際

1 対象生徒について

(1) 対象生徒の実態及び指導の手立て

生徒	A	B	C	D	E	F
での学校生活	ほとんどの生徒が他者との関わりを課題として挙げており、「自分の気持ちを相手に伝えることができる」「困ったことがあったら自分から相談する」「相手にわかりやすく物事を伝えることができる」等が目標となっている。また、「主体的に学校生活を送る」や「様々なことに触れ、興味関心の幅を広げる」等、自らいろいろなことに挑戦することや経験の幅を広げることも目標として挙げられている。					
美術の授業実態	どの題材もある程度のヒントがあると自分で進めることができる。iPad 操作が得意で意欲的に取り組む。自分の考えを表現することが苦手でうなずきで終わることが多い。	ゆっくりではあるがコツコツと取り組むことができる。言葉を発するまで時間がかかるが、的確な返答できる。また、友達作品のよい所に気づき、伝えることができる。	どの題材も器用にこなすことができる。対象の形を正確に捉え描く、ムラなくきっちり塗る、作ることができる。iPad 操作が得意で、すぐに理解し取り組むことができる。	対象の特徴を正確に捉えて描くことができる。制作の手順をすぐに理解し、自分で創意工夫しながら取り組むことができる。うまくいかない時に相談することが苦手である。	登校の不安定さがあるため、継続した取り組みが難しい。試行的活動や共同制作を好み、話し合いの中心になってアイデアを出すことができる。的確な意見を述べることができる。	題材の意図をしっかり理解し、テーマに沿ってじっくりと考え丁寧に取り組むことができる。対象の特徴を捉えて描くことができる。話始めに時間がかかることがある。
手立て	必要に応じて個別に作品見本やヒント、具体的な言葉の例を伝える。問いかけに答えられるような間を取る。	言葉が出るまで待つ。本人や友達の言葉をわかりやすい言葉に言い換えて伝える。発表シートを活用する。	本人の作風も認めつつ、多様な表現があることに気付くことができるような言葉かけをする。	相談しやすい雰囲気を作る。発言を肯定的に捉え、失敗してもそこから工夫し、表現の幅を広げる経験を増やす。	興味を持てる題材や話し合いながらできる題材の工夫を行い、次時への期待感が高まる言葉かけをする。	発表の順番を選択制にする、言葉が出るまで待つ等タイミングを見て言葉かけをする。発表シートを活用する。

(2) 美術に関するアンケート結果

下記の内容でアンケートに答えてもらった。

①	自分の作品の見て欲しいところやどんな気持ちで制作したかななどを伝えることができますか(図2-①)。
②	友達作品の良いところを見つけたり、アドバイスしたりすることができますか(図2-②)。
③	美術で学んだことが将来役に立つと思いますか(図2-③)。

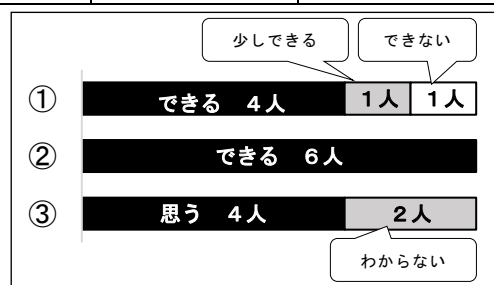


図2 アンケート結果

①については、ほとんどの生徒が、「できる」「少しはできる」と答えている。しかし、実際の場面を見てみると「～を頑張りました。」「これは～です。」等、活動内容の報告であることが多い。「あまりできていない」の理由に「下手すぎて説明ができない」という回答があった。このことから「うまい」「下手」で作品を捉えていることがうかがえる。

②についても生徒全員が「できる」と答えているが、実際の場面では「うまい」「すごい」等で完結しており、これらの説明の中に造形的な要素を用いた言葉は出てこないのが現状である。

①②の結果から、これまでの美術の授業で造形的な見方・考え方を働かせ、作品を見る、捉えるという指導の工夫が不十分であったと分析する。

③については、「思う」という回答が多かったが、その理由は「絵を描く仕事があるかもしれないから練習している。」「イラストレーターに関係あるから」等、「美術＝絵を描く」という狭い視野の中での回答であった。また「わからない」と回答した生徒もあり、これまでの指導で、美術と生活とのつながりや何のために学ぶのかという部分が伝わっていなかったと分析する。

2 造形的な視点と指導計画

造形的な見方・考え方を育むためには、まず造形的な視点を理解することが必要であると考える。美術では生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成が目標となっていることから、身近な生活の中の「美」に気付く題材を設定し、身の回りを形や色、素材等に着目しながら観察することで、造形的な視点について学習し、様々な視点を共有しながら作品制作につなげていく指導計画(表4)を作成した。第1次では、実際に校内を回り、「気になる、きれい、おもしろい」と感じる形や色、光、素材等を探し iPad で撮影し、それぞれの視点を共有す

る場面設定を行う。第2次では、みんなが撮った写真を様々な視点から見て、共通点などを見つけ仲間分けし、視点を整理する。第3次では、身の回りの素材を使った「コラージュ」作品に取り組む。「コラージュ」は、自分のイメージに合わせて身の回りの物を切り取って再構成することで新しい意味や価値を作り出すことのできる題材であり、また、自他の作品を見合うことで、自分とは違う表現方法があることに気付くことができる。第1次、第2次で造形的な視点で対象を捉える学習に取り組むことで、その

後の作品を鑑賞したり、感想を述べたりする際に、「上手」「下手」という見方ではなく、様々な視点から豊かに良さや美しさを捉えることができることを期待する。

毎時間の導入では見る力、感じ取る力を育成するために10分間スケッチにも取り組んでいく。

表4 指導計画

(時間)	題材 (全10時間)	学習内容
第1次 (5)	身の回りの「美」に 気付こう① 「はなさきの〇〇探し」	・造形的な視点について学習 ・身の回りを改めて観察 ・気になる対象を撮影、共有
第2次 (1)	身の回りの「美」に 気付こう② 「これはどんな視点？」	・撮影した写真を共有 ・造形的な視点で仲間分け ・美術室掲示
第3次 (4)	身の回りの「美」に 気付こう③ 「あったらいいな、 こんな世界」	・iPadのアプリでコラージュ ・身の回りの素材を切り取り、イメージに合わせて画面上で再構成 ・鑑賞会の設定

3 授業の実際

(1) 第1次：身の回りの「美」に気付こう①「はなさきの〇〇探し」

① 授業目標

ア 「造形的な視点」に気付き、理解できる。(知識・技能)

イ 身の回りを改めて観察し、気になる形や色などを見つけて撮影できる。 } (思考力・判断力
ウ 撮影したものについて造形的な視点で説明することができる。 } ・表現力)

② 授業の概要

初めに「造形的な視点」のキーワードを学習した。その後、校内を散策しながら、日常を改めて観察し、形や色彩、材料や光などの「造形的な視点」に着目し、自分なりの気付きを写真に撮った。なぜこの形や色を選んで撮ったのかを自分なりに意味付けをして説明したり、なぜこのような形をしているのか等を考えたりしながら、写真紹介をする時間を設定し、気付きを共有することで見方・考え方を広げる学習を行った。

③ 生徒の造形的な気付きの様子

生徒は校内散策を行いながら、それぞれの視点で様々なものを撮影していた。視線を変えて壁の低い位置や天井等、普段は気付かず通り過ぎているであろう場所へも意識を向け観察していた。全体のイメージで捉える生徒、一つのものをじっくりと観察する生徒など、生徒の気付きは多様であり、自分なりの意味付けをし説明を書き込んでいた(図3)。

また、散策中の会話はあまり見られなかったが、他の生徒が壁をズームして写真を撮った後に、同じようにズームして対象を見る姿も見られ、自分が気付かなかったものを、他の生徒の気付きを通して、「自分も見よう」という興味・関心につながったと考える。さらに、同じ対象を別々の視点で撮影する姿も見られ、造形的な見方の違いが表れていた場面もあった。これらを共有することでお互いに新たな視点が広がったと考える。



図3 撮影する様子と造形的な視点で撮った写真

写真紹介では自分が書き込んだコメント以外にも言葉を付け足して説明していた。聞く側の生徒も他の生徒の発表を一生懸命に聞こうとする姿勢が見られた。発表を聞きながら「あー、見える見える！」や「どこにあったの？」等と興味を持って質問する生徒もあり、他の生徒の発表を聞いて、今まで見えていなかったものが見えた瞬間であるとうかがえる。また、発表者の説明を聞いて、違う視点で感想を述べる生徒もあり、発表者にとってもまた、違った見方・考え方が広がったと考える（図4）。

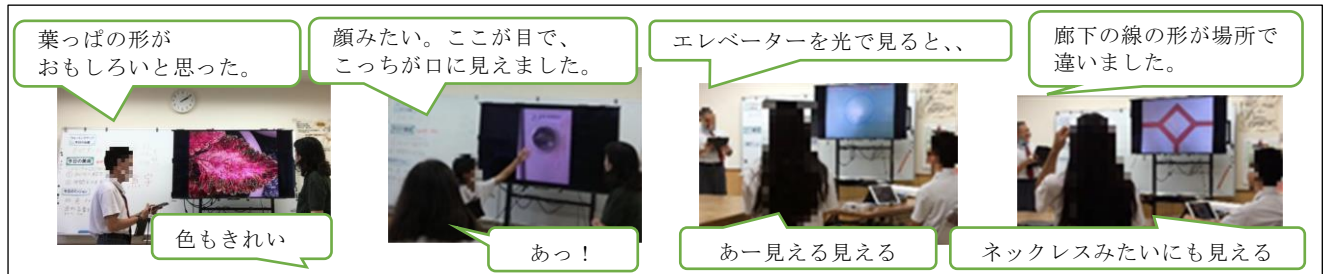


図4 作品紹介でのやり取りの様子

④ 生徒の振り返りより（第1次授業）

- ・「いろんな色と形があることがわかった。眠っている顔がおもしろい。」（生徒A）
- ・「こういう視点で写真を撮ればいいんだな—と思った。自分が撮っていないものをみんなが撮っていて、あーそうだったのか—と思った。」（生徒B）
- ・「A君の葉っぱはインパクトがあった。」（生徒F）

生徒たちがどのような視点に着目をして対象を見ると良いのかを理解し、視野が広がりつつある様子がうかがえる。

⑤ 検証授業より（参観者からの指導助言）

- ・一人一人の視点の違いを画像で見ることができたため共有しやすかった。
- ・それぞれが「おもしろい」と言っていたが、それぞれの「おもしろい」を言語化していた。
- ・どんな視点で作品を紹介していくか、自分の見方・考え方と他者の見方・考え方を比べて、他者の価値観を共有していく。多様性の気づきに寛容になる。今後の他者理解につながっていく。
- ・今後は、言語化することが難しい生徒へのアプローチや人のマネをきっかけにできる場面をたくさん作って、マネをしてもいい、そこから自分のものにしていくという意識を促し、表現の幅を広げていく支援も必要である。

以上、生徒の様子や参観者からの指導助言より、生徒たちが気づきを伝え合うことで、新たな視点に気づき、見方が広がっていることがわかる。また、「この形をしているのはなぜ？」という問いにたどり着いた生徒もあり、その理由を調べたりしながら機能についても考えるきっかけにもなった。今回の検証授業から、今後は発表を通しての学び合いだけでなく、制作過程の中で表現方法をお互いに共有できる場面設定や言葉かけで気づきを促す等、表現と鑑賞全体を通しての学び合いを意識した授業改善という課題が見えた。

また、題材の意図を理解し、身の回りの気づきを楽しみながら、自分が気になった対象を選び撮影する、他の生徒と気づきを共有し合う活動は、本校の「身に付けたい力」の意欲・関心、自己選択、他者理解等の力にもつながったと考える。

(2) 第2次：身の回りの「美」に気付こう②「これはどんな視点？」（仲間分け）

① 授業目標

ア 「造形的な視点」で他の生徒が撮った写真を見ることができる。（知識・技能）

イ 話し合いの場で自分の考えを伝えながら仲間分けすることができる。

ウ 話し合いを通して自分と違う視点や考えがあることに気付くことができる。

（思考力・判断力・

② 授業の概要

表現力）

それぞれが造形的な視点で撮影した写真を見ながら、共通点等を話し合い仲間分けし、視点を整理した。形、色、～みたいに見える（イメージ）等、造形的な視点のキーワードを確認しながら1枚の用紙にグループごとに糊付けし、造形的な視点表を完成させ、美術室に掲示した。視点表は今後の表現や鑑賞時の手掛かりにしていきたい。

③ 生徒の造形的な気付きの様子

それぞれが撮った写真を机上に広げると、1枚1枚手に取り、じっくり見たり、「これ～みたいだね。」と新たな視点で感想を述べたりする姿が見られた(図5)。教師が「造形的な視点ってどんな視点だった?」と確認したり、仲間分けのヒントを出したりすることで、生徒の気づきにつながり、生徒たち自身で造形的な視点での整理ができた。完成した表(図6)を美術室内に掲示し、「今後の作品作りや鑑賞時の手掛かりにして欲しい。」と伝えると、「じゃあ、景色を描きたい時はこれを見ればいいんだね。」等すぐに意欲的な反応が返ってきた。



あー、確かに

これとこれ一緒に
見えない?

図5 話し合いの様子



図6 仲間分けした掲示物



さわったら〇〇みたいグループ、色あざやかグループ、光グループ、景色グループ、マークなど様々な視点で仲間分けを行うことができた。

④ 生徒の振り返りより(第2次授業)

- ・「自分よりもいろんなことに気付いていた。」(生徒A)
- ・「Dさんの発表を聞いて『景色が変わった!』と思いました。色々、形の違いや景色が見られて楽しかったです」(生徒C)
- ・「個性があふれていることがわかりました。」(生徒D)

これらのコメントより、生徒自身がそれぞれの違った見方・考え方があることに気付いたという実感を持っていることがうかがえる。

また、自分の考えを伝え合いながら話し合いを進める活動は、本校の「身に付けたい力」のコミュニケーションや役割意識の形成、集団参加する態度の育成にもつながったと考える。

(3) 第3次:身の回りの「美」に気付こう③「コラージュ:あったらいいな、こんな世界」

① 授業目標

ア アプリの操作やコラージュについて理解し、自分のイメージに合わせて色や形、素材などを集め、表現することができる。(知識・技能)

イ 制作過程や自分の作品について、思いや制作意図を伝えたり、他の生徒の作品の良いところなどを造形的な視点で感想を伝えたりすることができる。(思考力・判断力・表現力)

② 授業の概要

iPadの「コラージュペイント」アプリを使用し、コラージュ制作を行った。「あったらいいな、こんな世界」をテーマに、これまで学習した造形的な視点で身の回りから素材を探し、切り取り、自分のイメージに合わせて画面構成を行った。制作過程や鑑賞会でお互いの作品を紹介し合い、新たな視点や表現方法を共有し合い、表現の幅を広げていく授業である。

③ 生徒の造形的な気付きの様子

第1次の授業で行った「身の回りを造形的な視点で見て撮影する」という学習の経験から、すぐに「ベランダに行きたい」「廊下に行きたい」と自分のイメージに合わせて目的地を決めることができた。他の生徒が撮っていた風景からヒントを得て自分の作品に取り入れる生徒もあり、散策しながらお互いに刺激し合いイメージを広げていく様子が見られた。(図7)

制作途中の作品紹介では「外の雲を切り取ったり、筆箱の動物を切り取っています。動物に追いかけている世界です。」(生徒F)「はなやぎくんネクタイを付けたり、花の色を変えたり、目を光らせたりしました。」(生徒C)等、自分の作品を一生懸命に説明していた。筆箱のマークから発想し、自分なりのストーリーを持って取り組む生徒、消しゴムをロケットに見立てて表現する生徒、前回までに見つけた色や光の素材を使って表現する生徒、発想の仕方は様々ではあるが、身の回りのものを造形的な視点で捉え、自分なりの意味付けをしていく姿が見られた。振り返りでは、「Dさんの作品が面白かった。この影の人が〇〇先生み

たいに見えた。」と言われ、Dさんが嬉しそうに自分の作品を再度見せ、それをまたみんなが画面をのぞき込んで共有するという様子も見られた（図8）。



図7 作品制作の様子

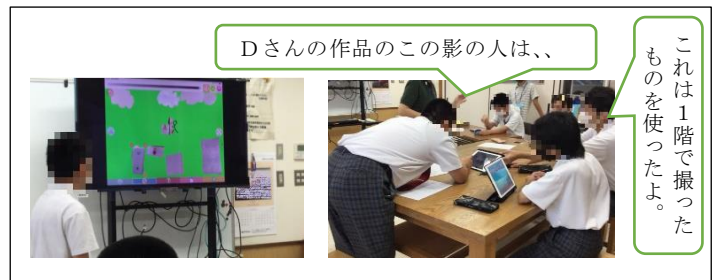


図8 作品紹介と振り返りの様子

④ 生徒の振り返りより（第3次授業）

- ・「Dさんの世界がおもしろかった。この人がA先生に似ている。」（生徒C）
- ・「自分にも想像できない世界を作って楽しかったです。」（生徒D）
- ・「新しいアイデアを思いついた。次の時間やりたいことが決まった！」（生徒E）

生徒が他の生徒の作品に興味を持ち、自分なりの感想を持ったり、新たなアイデアを思いつき、またやりたいという意欲につながったりしている様子がうかがえる。

⑤ 検証授業より（参観者からの指導助言）

- ・自分たちで発言することが少ない生徒たちであるが、iPadを使ってなら、嬉しそうに発表していた。
- ・目的を絞って焦点を当ててきたことから、見方・考え方を子供たちがよく理解できていた。
- ・作品紹介の前に発表シートの記入があったため、発表の手掛かりとなり、自分から発信する行為がやりやすいものになっていた。シートも手書きと入力2種類あり、生徒が選択できたのは良かった。
- ・それぞれの作品について、彼らなりの見方で発表できていたが、語彙力や言葉の広がりや足りない部分もあった。そこで、教師が繰り返し表現することで言葉の広がりや言語的な発達にもつながる流れを作っていた。
- ・作品紹介の場面以外にも生徒同士で操作方法を教えるという学び合いの場面が見られた。
- ・教師が発問する、発問のエッセンスを意識し授業を進めていくことが大切。

以上、生徒の様子や参観者からの指導助言より、作品紹介では、これまでの様子とは違い、「花の色を変えたり、目を光らせたり」等、造形的な視点での工夫点を交えて紹介できるようになっていることが見て取れる。作品紹介にiPadを活用したことも発表への意欲につながった。今後は「どうしてその素材を選んだの？」等、生徒の思いや考えをさらに引き出す発問の工夫をすることが引き続きの課題である。

また、自分のイメージに合わせて素材を選択する、自分たちで様々なストーリーを楽しみながら制作する、制作意図を伝える、次にやりたいことができたという生徒の様子から、本校の「身に付けたい力」の自己選択、目標設定、自己・他者理解にもつながったと考える。

(4) 授業の導入「10分間スケッチ」

① 目標

ア 対象の形、素材、明暗等を捉え限られた時間で描くことができる。（知識・技能）

② 授業の概要

昨年度から毎時間継続して授業のウォーミングアップとして取り組んでいる。今年度は造形的な視点で身の回りを見るという観点で「美術室にある『まるいもの』『やわらかいもの』」等、出されたお題を意識して生徒自身でモチーフを探し描くという内容である。

③ 生徒の造形的な気付きの様子

「まるいもの」では、美術室の様々な物を手に取りながらモチーフを探していた。描き終わった後に、「なぜこれを選んだのか」を聞くと、「こっちから見たらまるいから。」「この部分がまるだったから。」と自分なりの見方で答えることができた。一つの対象をいろいろな角度から見て、形を捉えることができたと感じる（図9）。「やわらかいもの」では、探す前に「やわらかいってどんな感じ？」と質問すると「ふわふわ」「もちもち」等言葉で表現したり、触った感触をジェスチャーで表現したり様々な答えが返ってきた。実際に探し始めると、指

で感触を確かめながら探す姿も見られた（図 10）。

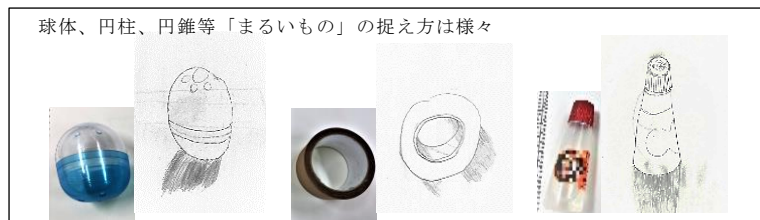


図 9 生徒が自分なりの見方で選んで描いた「まるいもの」

また、これまで立体を平面でしか捉えることができず表現が難しかった生徒が、様々な角度から対象を見たり、感触を確かめたりする中で、物の見方が育ち、スケッチにも変化が現れた。立体的に描いたり、光と影、素材感を意識して表現したりすることができるようになった（図 11）。

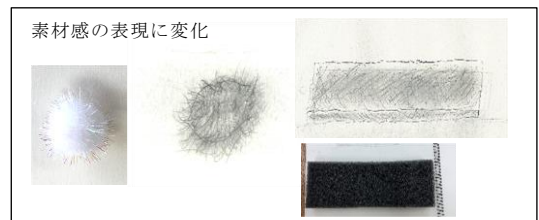


図 10 「やわらかいもの」

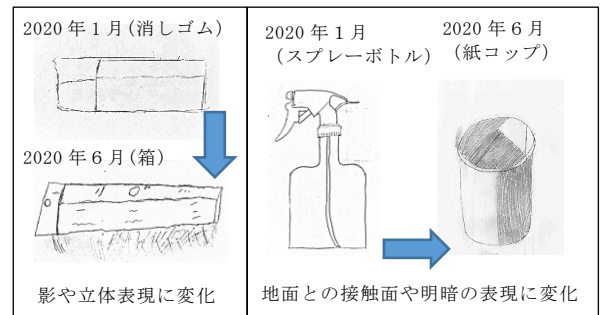


図 11 スケッチ（ものの捉え方）の変化

IV 仮説の検証

表現や鑑賞の活動を通し、造形的な視点の理解を促す指導と自分の思いや考え、イメージを伝え合う活動を積み重ねることで、対象を豊かに捉える態度が育まれ、造形的な見方・考え方が広がるであろう。

造形的な見方・考え方を育むために必要な視点である「造形的な視点」を理解するために、身の回りを改めて見るという題材を設定した。身近な生活を題材として取り入れることで、「毎日見ている場所なのに気付かなかった！」という発見がより大きかったように感じる。また、身近なものであるため、他の生徒とも共有しやすかったと考える。そのため、「どこにあったの？」等、意欲的に他の生徒の気づきやイメージを共有しようとする姿が見られた。指導の工夫として、身の回りを意識した造形的な視点の理解、身の回りの素材を使って作品制作、鑑賞会という流れで行ったため、生徒たちは、途切れることなく造形の要素を意識し表現や鑑賞の活動に取り組むことができた。また、写真の仲間分けでは、造形的な視点のカテゴリーを設定する話し合いに多少の困難も見られたが、他の生徒の多様な考えに気付くという点から造形的な視点の理解を深めることができたと考える。造形的な視点の表を教室に掲示することで視覚的にもお互いに共有することができ、この表を活用しながら作品の説明をする生徒もいた。

自分の思いや考えを伝え合い共有する場面（表 4）を設定し、生徒の思いや考えを引き出す指導の工夫（表 5）を行ったことで、自分の思いや考えをより伝えやすくなり、発表が苦手、時間がかかる生徒もスムーズに発表できた。また、聞く側の生徒にも意欲的な姿勢が見られ、話す、聞くが充実することで、気づきもたくさん出てきたと考える。これらを通し、昨年度までは他の生徒の作品に興味を持つことが少なかった生徒たちが、互いの作品に自分なりの感想を述べたり、「あ、そうか！」と新たな視点に気づき、反応したり等の対話が生まれた。

作品紹介の場面でも昨年度は、作品を見せながら「～を作りました。」「これは～です。」とやったことなどの紹介であったが、表 6 の下線部に見られるよ

表 4 自分の思いや考えを伝え合う場面

- ・第 1 次：身の回りの「美」への気づき紹介
- ・第 2 次：仲間分けの話し合い
- ・第 3 次：制作過程の共有、完成作品紹介
- ・毎時間：10 分間スケッチ紹介、振り返り

表 5 自分の思いや考えを引き出す指導の工夫

- ・発問、言葉かけの工夫。「どうしてそれを選んだの？」という問いかけを意識。
- ・生徒が扱いに慣れている iPad を発表の手立てとして活用。
- ・自分の思いや考えを整理して発表するためのシートの作成と活用。発表シートは生徒が選べるように手書きのシートと入力シートの 2 種類を準備。
- ・自分なりの言葉で表現ができるよう言葉が出るまで待つ姿勢、生徒の実態に合わせた間を意識。
- ・生徒の言葉を繰り返し伝えたり、わかりやすい言葉に言い換えて伝えたりする。
- ・制作途中に良い発想や手法をしている生徒がいたら、他の生徒のヒントになるよう促す。

うに、色、形、イメージ等の造形的な視点を踏まえて工夫点等を紹介するという変容が見られた。このことから、本題材を通して造形的な視点を意識できるようになったことで、制作表現だけにとどまらず、言語表現も広がりつつあると捉える。

また、授業ビデオを検証すると、作品の中にこれまでの気付きを生かし作品に取り入れたり、他の生徒の気付きや表現方法からヒントを得て、自分の作品に取り入れたりする様子が表れていた。光っている感じにしたかったからこの素材を使った、色相を調節して色を明るくした等、自分のイメージに合わせて表現方法を工夫する姿が見られた。

生徒の本題材での振り返りには、「説明がしやすかった。」(生徒B)「前と比べて色を変えることができたようになった。」(生徒C)とあり、生徒たち自身も自己の変容を実感していると考ええる。また、自分の思いを伝えたり、お互いの作品を共有したりすることについては、「自分のも良かったけど、友達のも見てこんな世界もあるのかと思いました。」(生徒F)

という回答があり、多様な表現に気付くことができたと考えられる。

そして、これらの対象を豊かに捉える力は10分間スケッチの表現にも反映されていると考えられる。

以上のことから、表現や鑑賞の活動を通し、造形的な視点の理解を促す指導と自分の思いや考え、イメージを伝え合う活動を積み重ねることで、対象を豊かに捉える態度が育まれ、造形的な見方・考え方が広がったと考える。

造形的な見方・考え方を働かせることで、美術で身に付けたい資質・能力が育まれ、それにより造形的な見方・考え方がさらに豊かになる。造形的な見方・考え方が育まれると、社会や生活の中で感性や想像力を基に新たに創造していく力、様々な視点を手掛かりに試行錯誤し、問題解決していく力、多様な見方・考え方の理解(自己・他者理解)等、はなさき分校の「身に付けたい力」、そして、これからの社会に必要な力へとつながっていくと考える。

表6 作品紹介コメントより検証

- ・消しゴムをロケットに見立てて、自分が乗って飛んでいくところです。これ(タッチペンの先)を星に見立てています。(先が光っていたから使った)(生徒A)
- ⇒これまで、感想発表も教員がヒントを出したことに「うん」と言って終わることが多く、自分の言葉で思いを伝えることが見られなかったが、今回は自分の表現に自信を持って自分の言葉で発表していた。
- ・「ようこそはなさきへ」という風景です。花と空とはなやぎくんを使いました。空の色を変えました。(生徒B)
- ・はなやぎくんを8匹入れて、2匹にネクタイを付けました。このネクタイは廊下の線で撮りました。1匹は目を光らせました。これは消火栓のランプを使いました。4匹は色を変えました。花の色は緑、ピンク、黄緑、青に変えました。(生徒C)
- ・空を撮って、ボーっとしてのんびりとした風景を思い描いた。のんびり空を見たいのをイメージした。なので、(素材を)多すぎず少なすぎず使った。空を加工して明るくしている。(生徒E)
- ⇒色に着目することで、自分のイメージに合わせた表現の幅が広がった。
- ・筆箱の動物から追いかけていっている世界です。最初は人間を描いていたけど、自分を切り取って入れて工夫しました。外の地面、空、水道の壁、筆箱を使いました。動物から想像力を働かせて作った。(生徒F)
- ⇒1回目の授業は曇り空、2回目は晴天だったため、自分のイメージに合わせて雲を切り取り直していた。試行錯誤しながら制作に取り組む様子が見られた。

V 成果と課題

1 成果

- (1) 題材や指導の工夫をすることで、造形的な見方・考え方を支える造形的な視点の理解を促すことができ、生徒の造形表現や言語表現の幅が広がった。
- (2) 思いや考えを伝え合う場面を設定し、生徒の実態に合わせた手立てを行うことで、新たな視点に気付いたり、イメージを共有したりし、多様な見方・考え方を広げることができた。
- (3) 新学習指導要領に基づき、主体的・対話的で深い学びの実現や育成を目指す資質・能力について整理することで、今後の授業実践における方向性が確認できた。
- (4) 美術において主体的・対話的で深い学びの実現を図ることで、はなさき分校の「身に付けたい力」の育成につなげることができた。

2 今後の課題

- (1) iPadを使った作品づくりだけでなく、いろいろな画材や素材を使って創作する等、多様な表現や鑑賞の活動を通し、造形的な豊かな視点と見方・考え方を広げていくことができる指導。
- (2) 様々な美術作品を鑑賞し、対話を通してよさや美しさを感じ取ったり、批評したりしながら、自分なりの意味や価値を見出し、見方や感じ方を深めていくことができる指導。

〈参考文献〉

- 田中保樹・三藤敏樹・高木展郎編著 2020 『資質・能力を育成する学習評価ーカリキュラム・マネジメントを通してー』 東洋館出版社
- 末永幸歩 2020 『自分だけの答えがみつかる 13 歳からのアート思考』 ダイアモンド社
- 文部科学省 2020 『特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）』 ジアース教育新社
- 文部科学省 2020 『特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（下）（高等部）』 ジアース教育新社
- 神山努 2019 『知的障害教育ならではの主体的・対話的で深い学びができる本』 学研教育みらい
- 文部科学省 2019 『特別支援学校高等部学習指導要領（平成 31 年告示）』
- 山崎正明 2019 『中学校 美術の授業がもっとうまくなる 50 の技』 明治図書出版社
- 吉田真理子編著 2019 『知的障害特別支援学校の「主体的・対話的で深い学び」』 ジアース教育新社
- 沖縄県立大平特別支援学校 2018 『平成 30 年度 沖縄県教育委員会指定研究（教育課程）最終報告書』
- 沖縄県立美咲特別支援学校はなさき分校 2018 『平成 30 年度 沖縄県教育委員会指定研究（教育課程）最終報告書』
- 澤井陽介 2017 『授業の見方 主体的・対話的で深い学びの授業改善』 東洋館出版社
- 宮崎英憲監修 2017 『学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校』 明治図書出版社

〈参考 WEB サイト〉

- 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf（最終閲覧 2020 年 8 月）
- 独立行政法人教職員支援機構 校内研修シリーズ
<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/>（最終閲覧 2020 年 8 月）
- 栃木県総合教育センター 2018 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【理論編】
http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/chousakenkyu/h30_jyugyoukaizen（最終閲覧 2020 年 8 月）
- 内田洋行教育総合研究所「学びの場.com 授業実践リポート 美術教育を考える(1)～(6)」
<http://www.Manabinoba.com/class-reports/017868.htm>（最終閲覧 2020 年 7 月）
- 熊本県教育庁教育指導局義務教育課 令和元年度熊本県中学校新学習指導要領全面実施に向けた研究協議会「美術科」
<https://ws.higo.ed.jp/kikuchiws/wysiwyg/file/download/18/369>（最終閲覧 2020 年 7 月）
- 西部教育事務所 学校教育に関すること 教科・領域等のポイント「図画工作・美術」
http://www.pref.saitama.lg.jp/g2202/gakuryokukoujou_jugyoukaizen/documents/07zugabijutu.pdf（最終閲覧 2020 年 7 月）
- 光村図書 教科書・教材 中学校美術 「美術鑑賞を楽しむ 6 つの手がかり」「はじめよう、対話による鑑賞の授業」
http://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/c_bijutsu/index.html（最終閲覧 2020 年 7 月）
- 日本文教出版 機関誌・教育情報「形 forme No.316-2018」
<http://www.Nichibun-g.co.jp/data/education/forme/forme316/>（最終閲覧 2020 年 6 月）
- 日本文教出版 Web マガジン「使ってみよう！ずがこうさくの教科書 解説 山田芳明」
<http://www.Nichibun-g.co.jp/data/web-magazine/zuko-tbs/>（最終閲覧 2020 年 6 月）
- 日本文教出版 Web マガジン「学び！と美術」
<http://www.Nichibun-g.co.jp/data/web-magazine/manabito/art/>（最終閲覧 2020 年 6 月）

〈使用アプリ〉

- 有限会社スタジオビートニクス 「コラージュペイント(コラペ)」